

## 平成19年度第1回東北ブロッククラブミーティング2007開催報告

期日 平成19年6月23日(土)

場所 仙台市体育館研修室

去る平成19年6月23日(土)東北ブロッククラブミーティングが仙台市体育館を会場に開催され、東北6県の育成指定クラブより新規24、継続22、オブザーバー3、合計49名と各県体育協会担当者、クラブ育成アドバイザーが参加した。

午前の部のシンポジウムでは、育成指定クラブを卒業した1年目、2年目のクラブからの事例紹介と、育成アドバイザーの立場からの創設ポイントのアドバイスをいただいた。

午後のグループディスカッションでは、テーマ別の小グループからテーマ別グループで情報交換し、最後には全体会で、テーマ別に話し合われた内容を報告し、情報の共有化を図った。

### 【1 シンポジウム】

シンポジスト	みんなで創るスポーツクラブ すいっち	渡部 貴人 氏(設立1年目)
	NPO法人 フォルダ	司東 道雄 氏(設立2年目)
	秋田県クラブ育成アドバイザー	小畑 敬三郎 氏
コーディネーター	東北ブロック地方企画班長	黒須 充 氏



コーディネーターの黒須班長より、総合型地域スポーツクラブ(以下クラブ)が何をを目指すのか、クラブの社会的な意義といった内容を確認され、その上で、各シンポジストから設立過程やそのときの課題、または、運営に至るまで、事例を紹介いただいた。

みんなで創ろうスポーツクラブすいっち(福島県)では、当初、町の既存団体で創設の議論を進めていたが、行政担当者との確執などが表面化し、設立に至らない状況であった。しかし、逆に住民側の団結力を生み、設立準備途中で仕切り直しする形で、クラブ設立に至った。その状況もあり、現状では既存団体との連携はとられていないが、今後の連携も視野に入れながら運営している経緯を紹介いただいた。

NPO法人フォルダでは、みんなが参画する環境整備の事例と指定管理者制度などの方法による財源の確保を報告いただいた。特に「いいだしっぺ制度」(いいだしっぺとは、東北地方の方言で「言い出した人」という意味)に関しては、企画から会計までいいだしっぺが行うといった取り組みに、多くの参加者がうなずく姿が見られるほど興味を持った様子であった。

小畑アドバイザーからは、秋田県内の取り組み事例



をまとめて紹介いただき、地域ごとの特性によって、取り組み方も違うことを紹介いただいた。  
参加者からは、体育協会との関わり方など質問も活発に出され、シンポジストの意見などかなり印象に残ったようであった。

## 【2 グループディスカッション】

小グループ進行：各県育成アドバイザー、テーマ別進行：地方企画班員  
テーマ 「クラブの理念・目的、設立過程について」2グループ  
テーマ 「人材確保と既存団体等との連携について」4グループ  
テーマ 「クラブの事業と財源の確保について」3グループ



グループディスカッションは、5～6人のテーマ別小グループで、参加申し込み時に設立過程においての課題を出していただき、その課題についてクラブ育成アドバイザーが進行役として意見交換していただいた。

理念をつくる方法や人材確保、プログラムから財源確保の方法に至るまで、設立時の同じ悩みを持った仲間同士で情報交換することで、仲間作りにも結びついたようであった。

また、準備の進み具合なども再確認できたといった声も聞かれ、有意義な交換会となった。

その後、テーマ別に各グループで出された情報を共有していただく目的で、テーマ別の情報交換をしていただいた。

小グループで情報を得たこと以外にも更に情報が増え、多くの情報が加わることで、皆さんのやる気ますます高まり、解決策も見えてきたように思われた。



## 【3 全体会】

コーディネーター	東北ブロック地方企画班長	黒須 充 氏
アドバイザー	東北ブロック地方企画班員	高村 眞司 氏
	東北ブロック地方企画班員	司東 道雄 氏
	東北ブロック地方企画班員	小松 史嗣 氏

テーマ別グループワーク後には全体会を開催し、各テーマ別に出された課題やその対処法など各参加者代表から報告していただいた。

テーマ1「クラブの理念・目的、設立過程について」では、どのような方法で理念を作ったらいいのか、現状の取り組みから、重要性を再認識した点など紹介していただいた。

テーマ2「人材確保と既存団体等との連携について」では、人材確保では、地域の様々な方面から確保する事が大切なことや体育協会との連携の点で、既存活動以外の健康づくりなどの活動を行うことも大切であること、地域の活動状況などを十分に把握することも大切であることなど報告していただいた。



テーマ3「クラブの事業と財源の確保について」では、金額設定の方法や人件費、自主財源での活動維持への心配などグループ内で情報交換したことを報告いただいた。



その後、地方企画班員から補足と創設のポイントとして、「地域の課題を整理し、理念を作ることが重要なこと」「地域の財源を掘り起こし、連携して取り組むこと」「地域のニーズを把握し、プログラム提供すること」「教育委員会以外の分野の事業と連携すること」など、改めてアドバイスし、また今後の取り組みにエールを送った。

参加者からは、既存団体の連携の難しさはあるが、目的は同じと思われるので、連携を促進することが大切であることやオブザーバーとして参加されていた参加者からは、クラブづくりや運営を「楽しむ」ことが大切であるということの意見も出された。

全体を通し、「人」「モノ」「金」「情報」といった経営資源を確保する課題に目が行きがちであるので、地域の課題に取り組むといった理念を大切に、目的に応じたクラブづくりの必要性を再度確認した上でクラブづくりに取り組んで欲しいと感じた。

最後のまとめでは、「クラブの自立」について地方企画班員からも「自分が自立成長して行くことと同じで、クラブも育てて行く意識が必要」「山あり、谷ありがあることは必然である」「楽しみの中から学ぶことが多いこと」など紹介いただき、自立を図ることを最大のテーマとして締めくくった。

(報告；東北ブロック地方企画班員 小松 史嗣)